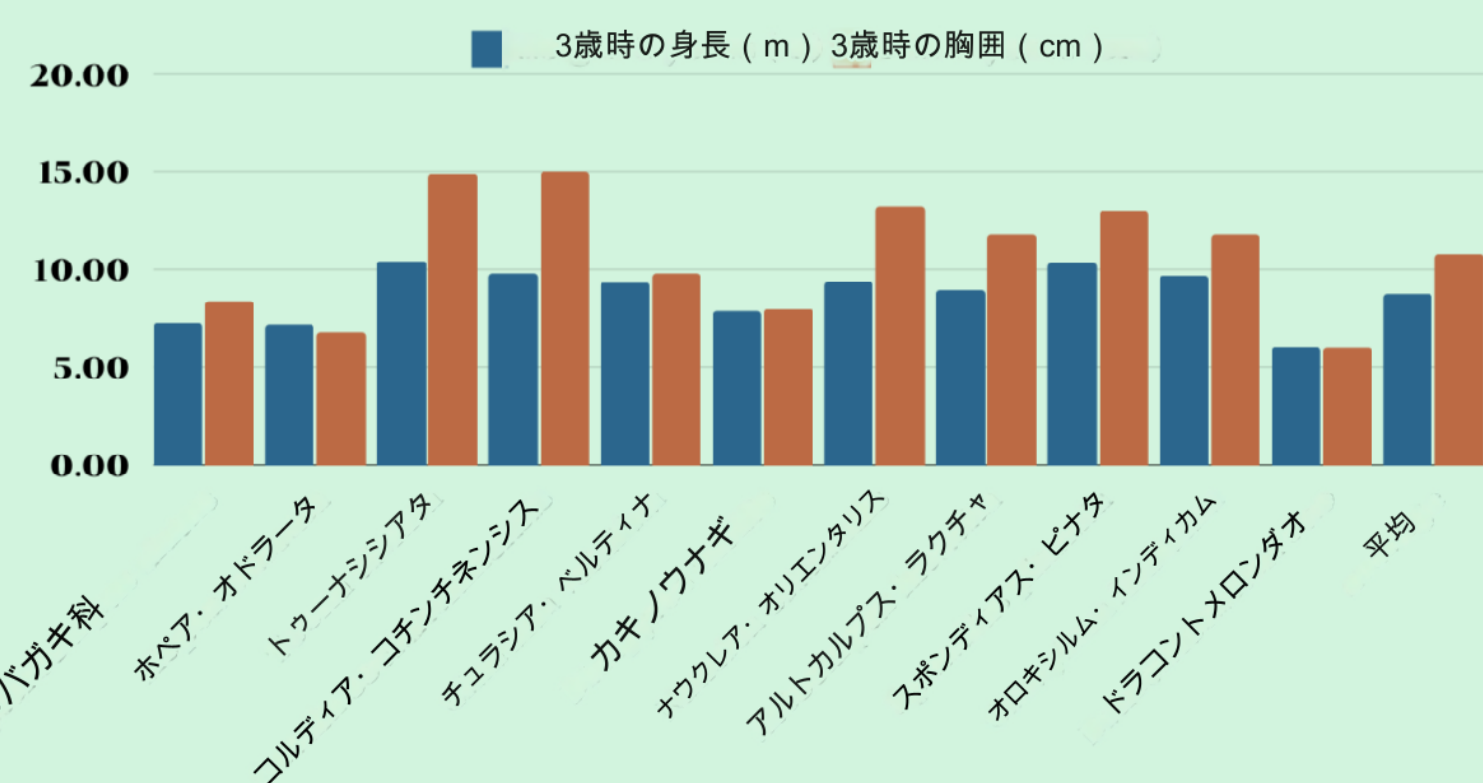


フォレスティアス バンナ プロジェクト  
バンナ・トラッドロード  
サムットプラカーン県 タイ



宮脇森林プロジェクトは、住宅地とシームレスに一体化した 12 エーカーのエリアで構成されています。宮脇方式では、在来樹種を選択して、多様な植物や動物のコミュニティをサポートするエコシステムを作成します。専門家が実施した生物多様性調査では、哺乳類、鳥類、魚類、両生類、爬虫類、クモ類、昆虫などの動物が対象となりました。動物は合計 223 種を特定しました。これらのうち、大部分 (93.12%) は、人間が懸念していない種です。ただし、住民が依然として望ましくないと考えている非危険種もいくつかあり、4.93% を占めています。危険な種は、わずか 1.35% です。「望ましくない種」という用語は、実際には脅威を与えないにもかかわらず、住民が懸念している動物を指します。たとえば、無毒のヘビや、迷惑ではあっても危険ではない特定の昆虫などです。



住民にこれらの動物の習性や行動、生態系における役割について教育することで、住民のこれらの種に対する理解と受容が深まります。この知識は、次の 3 つのチャネルを通じて解説活動を組織するために活用されています。



森林訪問者のための自然解説: 生態学担当官が、宮脇方式による生態学的森林の創出と、植物の世話や動物の生物多様性を含むさまざまな側面の管理に関する知識を訪問者に提供します。



ヘビ管理トレーニング コース: ヘビの行動を理解し、正しく安全に管理する方法を学び、ヘビを扱う人とヘビの両方の安全を確保します。



環境教育活動: 宮脇森林地域を教育の場として活用し、若者に自然や野生生物への感謝の気持ちを植え付けるための学習の場を作ります。このアプローチは、成長とともに環境保護の心を育むように設計されています。

これらの活動は、生態学的情報を通じて前向きな姿勢を育み、参加者が自然地域に住む生態系のバランスを維持する権利を持つ他の生き物の視点を理解するのを助け、自然をより深く理解している人間との共存を可能にすることを目的としています。宮脇の森は、人々の保全マインドセットの育成を伴います。このマインドセットは社会全体に広がり、地球レベルで緑地と野生生物を大切にすることを形成します。同じ地域で人間と動物のコミュニティが共存していることを考えると、自然解釈がプロジェクトの住民と周辺コミュニティの理解を育む上で極めて重要な役割を果たしていることは明らかです。このような活動は、さまざまな動物の行動を理解することを通じて、自然と調和して生きることの価値を認識しやすくします。知識ベースは、森林生態系における望ましくない動物の役割を網羅するように拡張されます。それらの存在は単に否定的なものではなく、森林のバランスに貢献し、他の多くの利点を提供することが強調されます。

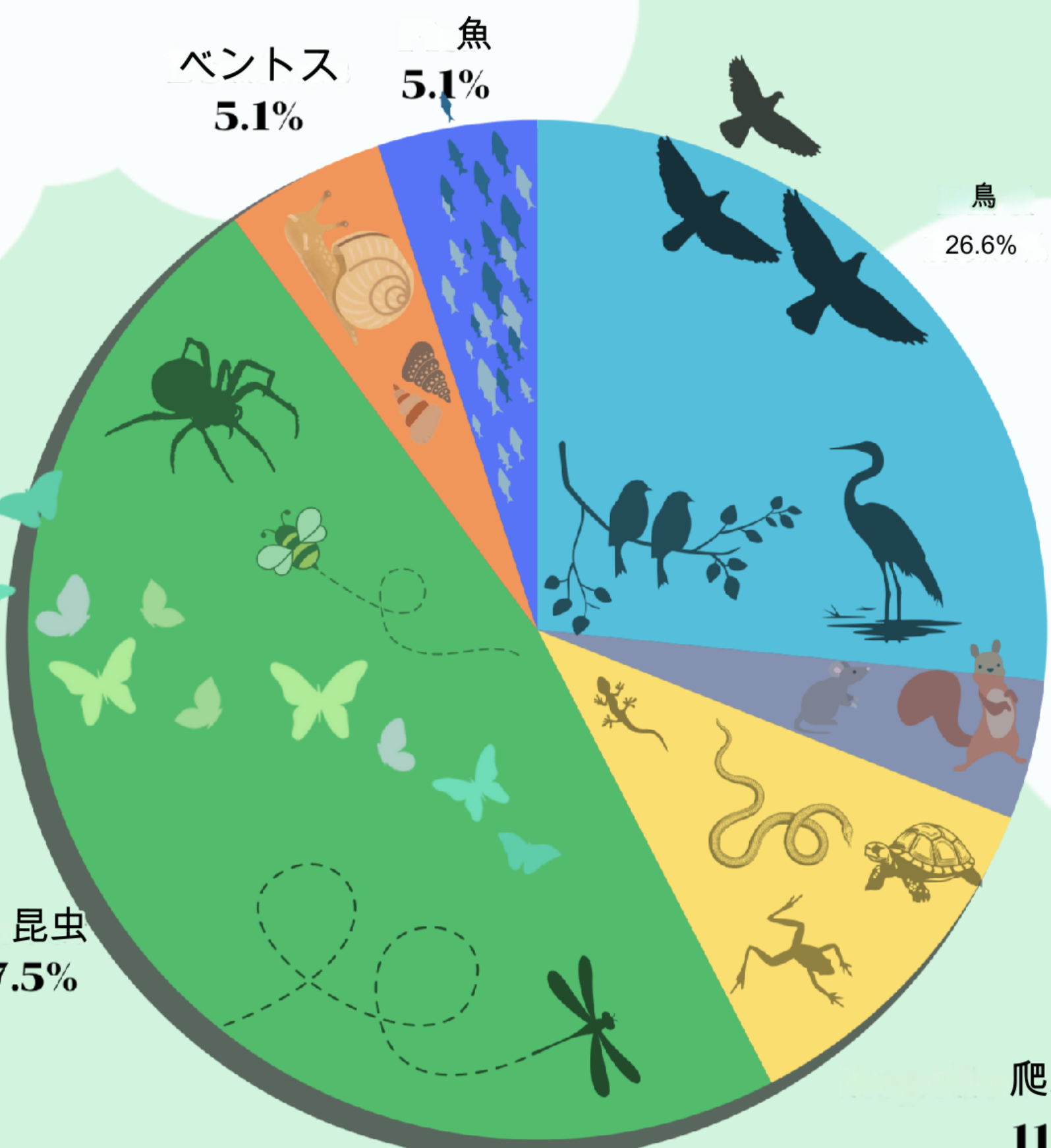
# 宮脇森林の不要動物に関する自然リテラシー： フォレスティアス プロジェクトの 事例研究。タイ。



すべての幸福のためのMQDC

Thanakorn Yodthongdee<sup>1</sup>、<sup>2</sup>Surin Warachun<sup>1</sup>、Sirin Kawlaierd、Anong Chanamool<sup>1</sup>  
The Magnolia Quality Development Corporation Limited、バンコク、タイ。2  
Biodiversity Research & Innovation Panra、The Forestias Project。

Forestias プロジェクトは、約 157 エーカーのエリアに建設される多目的開発プロジェクトです。その設計は、「すべての人々の幸福のために」という哲学に基づき、人間と自然が互いのスペースを侵害することなく調和して共存できるというコンセプトに基づいています。このプロジェクトは、居住者に安全な環境を提供することを目指しています。



植林後4年で223種

